

普及活動情勢報告

情勢報告（平成28年8月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

土着天敵の利用技術の向上 ―興津地区ピーマン栽培講習会の開催―



熱心に説明を聞く生産者

8月17日、J A四万十ピーマン部会が興津支所で栽培講習会を開催し、生産者9名が参加しました。J AはH29園芸年度に向けて定植からの栽培管理を、普及所は温存植物を利用した土着天敵の活用方法、天敵類に対する農薬の影響、防除体系について説明しました。

参加者から温存植物の育苗方法、天敵の放飼方法について質問が出されましたが、すでに土着天敵を活用している生産者の事例も聞かれ、より関心を高めることができました。

普及所は、J A四万十と協力し、現地巡回等により天敵利用技術、収量、品質の向上に向けて支援します。

環境制御技術等の先進技術の普及 ―ニラ部会東又支部会の開催―



現地検討の様子

8月18日、ニラ部会東又支部会が開催され、農家7戸が参加し、熱心に検討されました。

農家のほ場2ヵ所で現地検討を行った後、講習会を行いました。現地検討では、生育状況を確認しました。また、肥培管理や病虫害防除等について検討しました。

普及所からは、炭酸ガス施用や電照技術、実証試験の途中経過、ニラ産地の担い手確保・育成等について情報提供しました。

普及所は、今後もJ A四万十と連携し、農家の経営安定及び栽培技術向上に向けて支援していきます。

四万十の栗の生産振興 ―特選栗の審査会の開催―



審査会の様子

8月3日、四万十の栗再生を進めるJ A高知はたの独自規格である特選栗の審査会を開催し、2名の農家を審査しました。

特選栗は、一般、準特選、特選、超特選までの規格があり、樹の低樹高化に向けて剪定し、収量の向上と良品質果実の生産を目指すことで農家の所得を向上することを目的としています。

審査会では、J A、クリ技術者、普及所が特選栗の出荷希望者の現地ほ場を巡回し、低樹高化に向けた剪定が行われているか、意欲的に栽培に取り組んでいるかなどを確認しました。

普及所は、関係機関と協力し、農家所得の向上と生産量の増加に向けて支援していきます。

集落営農組織の広域連携に向けて！ ―高南地域集落営農組織代表者連絡会の開催―



講演会の様子

7月26日、既存の集落営農組織のステップアップや法人化、広域での組織間連携に向けて高南地域集落営農組織代表者連絡会を開催し、21組織37名が参加しました。

連絡会では、高南地域の現状と課題について説明した後、広域連携の先進地事例として広島県のファームサポート東広島の取組について本山博文代表による講演会、各関係機関の集落営農支援事業等について情報提供しました。

普及所は、今後も関係機関と連携し、集落営農のステップアップ、法人化、広域での組織間連携に向けて支援していきます。

中山間農業複合経営拠点の育成 ―影野小学校区世話人会の開催―



協議する世話人ら

8月3日、影野町民会館で仁井田集落活動センター農業支援部会の事業計画の策定に向けた影野小学校区世話人会が開催され、集落代表の世話人10名が参加しました。

世話人会では、仁井田地区（農業支援部会）の中心となっている3集落（床鍋、奥呉地、影野下）から10名の代表者を出して、今後事業計画の策定を進めていくことを確認しました。

普及所は、鳥取県などで集落営農を一般社団法人化させる動きがあることから、一般社団法人を含めて農業支援部会の法人化（法人組織形態）についての説明を行いました。

普及所は、今後も町役場、JAと協力して複合経営拠点の育成に向けて支援していきます。

次世代農業を学ぶ ―四万十町窪川地域認定農業者連絡協議会総会・研修会を開催―



次世代施設園芸団地の説明を受ける認定農業者ら

8月10日、四万十町窪川地域認定農業者連絡協議会総会・研修会を開催し、認定農業者等の農業者23名が参加しました。

研修会の開催に当たっては、地元で次世代施設園芸団地が整備されたことから、認定農業者としてもどのような施設でトマトが栽培されているのかなどを知っておくべきだとの意見もあり、団地の高軒高ハウスや集出荷施設、種苗生産施設などの視察を行いました。

参加者は、先進的な施設や栽培方式、トマト栽培の実際の様子などを見学しました。

普及所は町、JAと協力し、認定農業者個々の経営改善計画のフォローアップを行い、経営発展に向けて支援します。